大雨や台風が接近しそうなとき

1. 風水害の前兆・予兆情報を入手しましょう

風水害・土砂災害は事前に情報が手に入ります。3ページを見ながら情報を集めましょう。
避難が必要であれば4ページで避難の方法を、5～6ページで避難所を確認しましょう。

風水害時には、関係機関が様々な情報を発表します。テレビやインターネットを通じて、情報を収集しましょう。避難は浸水が始まる前に、自主的に判断して行いましょう。

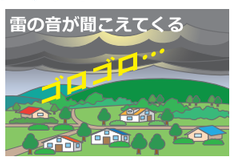
四万十川の洪水情報を自動的に配信するサービスを開始しました！

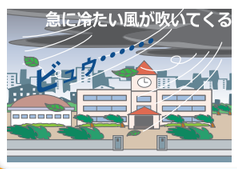
国土交通省では洪水時に住民の主体的な避難を促進するため、平成29年5月より洪水情報のプッシュ型配信を開始しました。四万十川が氾濫のおそれがある場合や氾濫が発生した場合、みなさんの携帯電話に緊急速報メールが送られてきます。
※一部対応していない機種や、受信ができない場合があります。

積乱雲の発達

「大気の状態が不安定」な時（上空に冷たい空気、地上に温かい空気の層がある時）に発生します。

積乱雲が近づくサイン



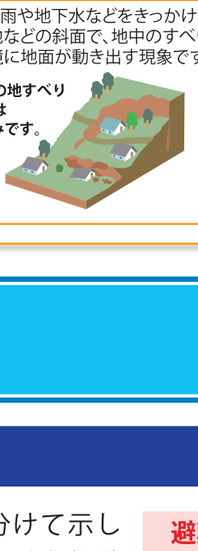


激しい雨と雷がやってくることがあります。

前線の停滞

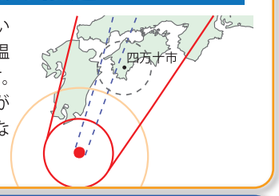
前線の停滞に起因する湿舌現象により、猛烈な集中豪雨（平成13年9月6日には高知県南西部で7時間で400mm）が発生することがあります。

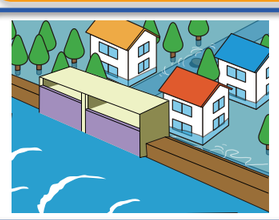
※湿舌現象：湿った空気が流れ込み大気の状態が不安定になること



台風の接近

台風は反時計まわりに渦をまいているため、進行方向右側から温かく湿った空気が流れ込みます。四万十市の場合は、台風の中心が豊後水道を通るときなど大きな影響を受ける場合があります。





内水はん濫

四万十市の場合は、本川の水位上昇により、桶門を閉じることで、排水が出来ず、内水はん濫が発生することがあります。

外水はん濫

四万十川や後川などの河川の水位が上昇し、堤防を越えたり、堤防が水の勢いで流されたりして決壊し、川の水が溢れ出すはん濫です。

2. 情報をもとに避難を判断しましょう

■ 避難を判断する情報

災害の危険性：雨の強さが増す → 大雨が一層激しくなる → 危険大

気象情報〔発表者〕気象庁

- 大雨・洪水注意報
- 大雨・洪水警報
- 記録的短時間大雨情報：数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨
- 特別警報：数十年に一度の降雨量となる程度しか発生しないような短時間の大雨

水位情報

洪水予報〔発表者〕国・気象庁

	後川（秋田）	中筋川（磯ノ川）	四万十川（具同）※無堤部	四万十川（具同）※有堤部	四万十川（津野川）	四万十川（川登）
はん濫危険水位	6.66m	8.11m	8.15m	10.10m	12.70m	13.60m
避難判断水位	5.67m	7.40m	7.70m	9.70m	11.90m	13.20m
はん濫注意水位	5.00m	5.50m	6.50m	6.50m	8.50m	10.40m
水防団待機水位	3.80m	3.80m	5.00m	5.00m	6.50m	8.20m

- 避難判断水位
- はん濫危険水位
- はん濫発生情報

土砂災害情報〔発表者〕高知県・気象庁

- 土砂災害警戒情報：土砂災害発生の危険性が高まった時に発表
- ※引き続き水位の上昇が見込まれる場合

避難情報〔発表者〕四万十市

- 土砂災害に警戒
- 土砂災害に厳重警戒
- 土砂災害の発生の恐れ
- 避難準備・高齢者等避難開始：避難の準備を開始する必要があるときに発令
- 避難勧告 避難指示：避難を開始する必要があるときに発令
  - ・水位が堤防の天端に達するおそれがあるとき
  - ・堤防の決壊や越水・溢水の発生した時など
  - 令和3年5月「避難勧告」は廃止され「避難指示」に統一されました。
- 避難指示：災害発生の危険が切迫しているときに発令

住民の皆さんがとるべき行動

- ●避難行動要支援者や、避難行動に時間を要する人は避難行動を開始する。
- ●避難行動を開始する。
- ●避難中の方は、避難行動を直ちに完了させる。
- ●まだ避難していない場合は、直ちに避難する。

※高潮発生のおそれがあるときは、気象警報や潮位、台風の最接近予想時刻に注意し、避難情報を収集して、適切な行動をとる。

がけ崩れ（急傾斜地の崩壊）

急な斜面が突然崩れて、家や道路に被害をもたらします。一瞬のうちに起こり、がけの上も下も危険です。

土石流

山から崩れてきた土や岩が、水と一緒になって谷を流れてくる現象です。車と同じくらいの速さ（40km/h程度）で流れてきます。

地すべり

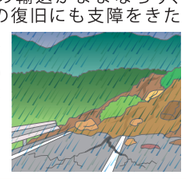
地すべりは雨や地下水などをきっかけに山すそや丘陵地などの斜面で、地中のすべりやすい地層を境に地面が動き出す現象です。

※四万十市の地すべり危険個所は1箇所のみです。

集落の孤立化

孤立化したらどうなる？

道路が寸断されると救助部隊の進入や救援物資の輸送がままならず、ライフラインの復旧にも支障をきたします。また、通信網が遮断され外部との連絡が取れなくなることも考えられます。



事前に家庭や地域で備蓄を！

外の支援がしばらく届かないことを想定し、家庭や地域の自主防災組織で協力して備蓄を進めましょう。

なんとか外部と連絡を！

通信網が遮断されても、地面に文字を書いてヘリコプターに発見してもらう（できるだけ大きな文字を描きましょう）など、様々な手段を試みましょう。

3. 適切な避難行動を

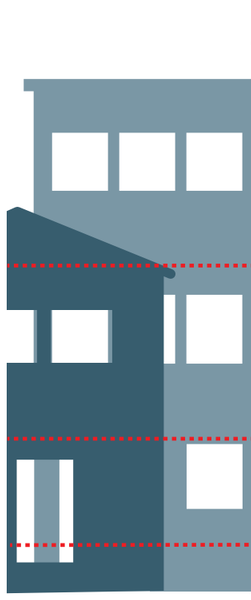
このマップは、洪水及び土砂災害の区域を、地区別（13地区）に分けて示しています。このマップで自宅や職場の場所を確認し、大雨時にとるべき行動の目安を確認しておきましょう。また、**ここで示す内容はひとつの目安です。**身の危険を感じたら、自分の判断で命を守る行動をとりましょう。

避難を考える上での留意事項
- ●ここで示すのは、大雨時にとるべき行動の目安であり、絶対的なものではありません。身の危険を感じたら、命を守る行動をとってください。
- ●被害想定がない範囲においても、絶対安全というわけではありません。もしもの場合を考えて行動してください。

地図で洪水（河川はん濫）、土砂災害の危険性を確認

洪水（河川氾濫）

あなたの家の位置は、浸水する区域に含まれていますか？また、家は何階建てですか？



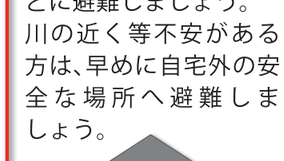
浸水深の目安		建物の階数
10m～20m	立ち退き避難が原則	4階以上 1～3階
5.0m～10m（3階部分まで水没のおそれ）	立ち退き避難が原則	3階以上 1～2階
3.0～5.0m未満（2階部分まで水没のおそれ）	立ち退き避難が原則 ●歩くのは危険	2階以上 1階
0.5～3.0m未満（1階部分まで水没のおそれ）	立ち退き避難が原則 ●歩く場合は十分注意	
0.5m未満（床下浸水のおそれ）		
浸水しない（浸水する区域に含まれていない）		

どしゃぶりで外に出る方がかえって危険な場合には

はい → 屋内安全確保

いいえ → 自宅に待機

どしゃぶりで、家の外に出る方がかえって危険な場合には、自宅や近所の高い建物の2階以上などに避難しましょう。
川の近く等不安がある方は、早めに自宅外の安全な場所へ避難しましょう。



土砂災害

あなたの家の位置は、土砂災害の区域に含まれていますか？

土砂災害
- 土石流危険渓流（被害想定区域）
- 急傾斜地崩壊危険箇所
- 地すべり危険箇所
- 土砂災害警戒区域（土石流）
- 土砂災害警戒区域（急傾斜）

がけ崩れ及び地すべり

斜面から離れる

土石流

谷筋に対して垂直に逃げる

※屋外への避難が困難な場合は、自宅2階以上の山と反対側の部屋へ

とるべき行動

立ち退き避難

自宅外の安全な場所へ避難

洪水や土砂災害時には、大変危険な状況になることが想定されます。

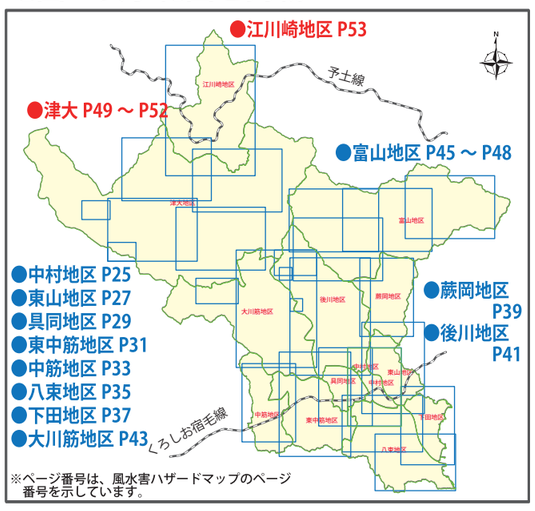
災害発生前の早めの避難が必要です。

屋内安全確保

自宅に待機

どしゃぶりで、家の外に出る方がかえって危険な場合には、自宅や近所の高い建物の2階以上などに避難しましょう。
川の近く等不安がある方は、早めに自宅外の安全な場所へ避難しましょう。

地図の表示範囲と掲載ページ



※ページ番号は、風水害ハザードマップのページ番号を示しています。

凡　例

○	市役所、支所
	指定緊急避難場所
	指定緊急避難場所 兼 指定避難所
	福祉避難所
	病　院
No.	要配慮者施設
	消　防
	警察署・駐在所
	アンダーパス
H	ヘリポート
	防災行政無線（屋外拡声子局）
	雨量観測所
	水位観測所
	消防屯所
水	水防倉庫
備	備蓄倉庫
拠	防災活動拠点施設
———	地区界

浸水の深さ
- 10.0 ～ 20.0m未満
- 5.0 ～ 10.0m未満
- 3.0～5.0m未満
- 0.5～3.0m未満
- 0.5m未満

土砂災害
- 土石流危険渓流（被害想定区域）
- 急傾斜地崩壊危険箇所
- 地すべり危険箇所
- 土砂災害警戒区域（土石流）
- 土砂災害警戒区域（急傾斜）

浸水実績
- 四万十川（平成17年台風14号）岩田川流域（平成28年台風16号）